

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 7 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04400

研究課題名(和文) 国際理解の視点に立った東アジア交流史教材の実践と普及に関する研究

 研究課題名(英文) Study on application of the program and Dissemination of Teaching Materials
Focusing on the History of Exchange in East Asia from the Perspective of
International Understanding

研究代表者

高 吉嬉 (KO, KILHEE)

山形大学・地域教育文化学部・教授

研究者番号：20344781

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、東アジアの交流史に着目して日中韓の研究者が共同開発した『国際理解の視点に立った東アジア交流史の社会科教材開発』(課題番号：24531177)の成果をさらに深めるとともに、それら教材の実践および普及を行なうことである。3年間の研究活動では、開発した教材の有効性を確かめるために日中韓の研究者が高校教師とともに授業を行い、教材内容や授業の様子をHPに掲載しその普及に努め、最終年度にその成果を『交流史から学ぶ東アジア - 食・人・歴史でつくる教材と授業実践 - 』(明石書店、2018年)として刊行した。本研究の成果は東アジアの隣国理解を深めることに貢献することが期待されている。

研究成果の概要(英文)：There are two main aims of this project; application of the program and dissemination of the teaching materials, developed as the result of the previous project (JSPS KAKENHI Grant Number 24531177) by researchers of Japan, China and Korea. To achieve the purpose of this project, the developed teaching materials were applied by researchers and teachers in six different schools to improve the program. Some lessons using the teaching materials focusing on the history of exchange in East Asia were carried out by the project members and high school teachers. The research activity reports and lesson plans have been uploaded and published on the internet so that anyone can use them. The book "Learning East Asia from the history of exchange; Teaching Materials and Lesson Plans using Food, People, and History (Akashishoten, 2018)" was published as the final result of this project. The results of this project are expected to contribute to the mutual understanding among children in East Asia.

研究分野：社会科教育、国際理解教育

キーワード：社会科教育 国際理解 東アジア 日中韓 交流史 教材開発 授業実践

1. 研究開始当初の背景

日本の近隣諸国である韓国や中国など、いわゆる東アジアから向けられる日本に対する視点は相当厳しい。日本による過去の植民地支配や占領に関する歴史認識および戦後補償問題、尖閣諸島や竹島などの領土問題など、戦後70年近く経った今でも解決できていない問題が山積している。現在、外交的にも経済的にも政府や民間から多様なアプローチで解決策がとられているが、教育においても、特に社会科教育においても果たすべき役割は大きい。その中心になるのは、「国際理解」の視点である。

日本の社会科の場合、学習指導要領の目標は、「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を養うこととされ、これが「究極的なねらい」である。この目標を達成するためには、あらゆる側面にわたって、国際理解の視点を活かした授業を構想していく必要がある。

特にグローバル化とともに進む地域統合の流れの中で、2000年代に入り「東アジア共同体」といった声が聞かれるようになった。教科書問題など国際的な外交・政治問題となった歴史教育では、日本・韓国・中国の三国の市民が葛藤の解消に向けて共同研究を行う場合も見られる。しかし、社会科教育全体から見れば、そのような東アジア的な活動や実践は少ない。

このような現状を踏まえて、2012年度から3年間、研究代表者の高吉嬉を中心に日中韓の6名の研究者が集まって、東アジアの人やモノの交流史に着目して、共同で『国際理解の視点に立った東アジア交流史の社会科教材開発』（科学研究費補助金基盤研究(C):24531177)を実施した。本研究はその成果を継承・発展させるものである。

2. 研究の目的

本研究(課題番号:15K04400)は、上記の『国際理解の視点に立った東アジア交流史の社会科教材開発』の成果を踏まえて、さらにその教材開発を進めて内容を深めるとともに、それら教材の有効性を確かめるために実際に授業実践を行い、HPでの公表や本の刊行等により普及につなげていくことを目的としている。これら一連の活動を通じて改良された東アジアの交流史教材は、東アジアに生きる子どもや教員の認識変容を促し、隣国認識を深めることに貢献することが期待される。

3. 研究の方法

本研究では、国際理解の視点から東アジアの共通歴史教材の実践および普及を目的とし、以下の2点を実施する。

1点目は、さらなる教材開発と並行して、実践を行なう。開発した教材の有効性を確かめるために、学校現場での実践より明らかに

する。各国の高校教員と連絡を取りながら、日本と韓国・中国の学校を訪問し、開発した教材の内容や方法に関して実践での有効性を検討する。

2点目は、実践と並行して開発した教材の普及を行なう。高校において授業実践を行ないながら、すでに運用しているHP上で教材や授業実践の様子を公開し、その普及を図る。

上記の内容および方法により、開発した教材の検証、一般化という一連の作業を継続して行なっていく。そして、日本と韓国・中国の社会科教育の関係者に積極的に教材を提案していく。

4. 研究成果

教材の実践および普及を増進するために、計画された研究課題をおおむね順調に進めてきたといえる。

第一に、交流史というキーワードで開発してきた教材の有効性を確かめるために、日中韓の研究者が高校教師とともに授業実践を行なった。例えば、広島県立戸手高等学校での日中韓の箸文化に関する授業(蔡秋英,2016年3月14日)、釜山大学校師範大学附属高等学校での昆布に関する授業(金玟辰,2016年9月5日)、千葉県立安房高校での創氏改名に関する授業(坂田彩実,2016年9月16日)、山形学院高校での「在朝日本人二世」のアイデンティティに関する授業(高吉嬉・石川学,2017年7月12日と19日)などがあげられる。

第二に、教材内容や授業の様子をHP(<http://www.juen.ac.jp/kaken/24531177/index.html>)に掲載し、2018年5月31日現在、1,255人のヒット数を挙げるなど、教材の普及に成果をあげてきた。

第三に、最終年度には3年間の研究成果をまとめて、『交流史から学ぶ東アジア—食・人・歴史でつくる教材と授業実践—』(明石書店,2018年2月)として刊行し、これまで開発してきた教材の普及を行った。(表1,参照)。

表1 『交流史から学ぶ東アジア—食・人・歴史でつくる教材と授業実践—』(全136頁)

【目次】	
はしがき	高吉嬉
第I部 食文化でひろがる東アジア	
第1章 箸の文化はどのように発展してきたか	蔡秋英
第2章 あなたの街のカップ麺はなに味?	金玟辰
コラム① トウガラシとキムチ	金玟辰
第II部 人々でつながる東アジア	
第3章 江戸時代に漂流するとどうなるの	

第4章 「境界人」旗田巍のアイデンティティとは何であったか ……………高吉嬉・石川学	か……………國分麻里
コラム② 李仲變と山本方子……………高吉嬉	
第Ⅲ部 歴史から響き合う東アジア	
第5章 自分の姓名が変えられたとき、人はどう感じるか……………坂田彩実	
第6章 東アジアの町は日本の歴史とどのような関係があるか ……………梅野正信・山元研二	
コラム③ 韓国映画：嵐の丘を越えて（西便制）……………梅野正信	
あとがき……………二谷貞夫	

日中韓の6名の研究者による本研究活動は、共同で開発した教材だけでなく、教育活動を通じた東アジアの共生に向けての一つの人的取り組みとしても高く評価される。また3年間の研究成果は、これから東アジアの隣国理解を深め国際理解を増進し、東アジアに生きる子どもの認識変容を促すことに大きく貢献・寄与することが期待される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 18 件)

- ①高吉嬉・石川学, 「境界人」旗田巍のアイデンティティとは何であったのか, 交流史から学ぶ東アジア—食・人・歴史でつくる教材と授業実践, 明石書店, 2018, 71-90.
- ②高吉嬉, 李仲變と山本方子, 同上, 91-92.
- ③梅野正信・山元研二, 東アジアの町は日本の歴史とどのような関係があるのか, 同上, 109-127.
- ④梅野正信, 韓国映画：嵐の丘を越えて（西便制）, 同上, 128-129.
- ⑤國分麻里, 江戸時代に漂流するとどうなるのか, 同上, 54-70.
- ⑥金玟辰, あなたの街のカップ麺はなに味?, 同上, 30-49.
- ⑦金玟辰, トウガラシとキムチ, 同上, 50-51.
- ⑧蔡秋英, 箸の文化はどのように発展してきたか, 同上, 12-29.
- ⑨高吉嬉, 日本の大学生の周辺国とアメリカに対する他者認識と自己認識—日本の中学校社会科教育の課題を模索しつつ—, 韓国日本近代学会第35回国際学術大会文集, 2017, 282-285.
- ⑩高吉嬉, 李仲變と山本方子にみる「日韓多文化家族」, 韓国日本近代学会第34回国際学術大会論文集, 2016, 230-231.
- ⑪二谷貞夫, どこまで進んでいるのか新科目

- 「公共」, 歴史地理教育, 850号, 2016, 66-69.
- ⑫二谷貞夫, 世界史という「妖怪」を学ぶ意義, 中等社会科実践研究, 2巻, 2016, 25-45.
 - ⑬高吉嬉・金ホンキュ・李サンラン, 韓・日大学生の思考及び意識性向に対する比較研究, 教育文化研究(仁荷大学校教育研究所, 第22-1号, 2015, 67~100.
 - ⑭高吉嬉, 日本の中学校歴史教科書にみる「満州」認識, 韓国日本近代学会第31回国際学術大会論文集, 2015, 255~258.
 - ⑮高吉嬉, グローバル市民教育の視点からみた日韓関係, 日本近代学術研究, 第50号, 韓国日本近代学会, 2015, 27-49.
 - ⑯高吉嬉, 東アジアにおける平和と友好のための教育課題, 終戦70周年 東アジア関係の回顧と展望, 東義大学東アジア研究所(招聘論文), 2015, 47-64.
 - ⑰梅野正信, 日本統治下中等学校校友会雑誌において醸成されたアジア認識, 近代東亜教育與社会国際学術検討会論文集, 2015, 1-14.
 - ⑱金玟辰, 地域的特色を生かした社会科教材作成のための課題—音威子府村を事例に—, へき地教育研究, 第70号, 2015, 37-45.

〔学会発表〕(計 12 件)

- ①高吉嬉, ろうそくと太極旗にみる韓国の「いま」—現在進行中の民主化と和解への道—, 山形県AALA(招待講演), 2018. 4. 22.
- ②高吉嬉, 日本の大学生の周辺国とアメリカに対する他者認識と自己認識—日本の中学校社会科教育の課題を模索しつつ—, 韓国日本近代学会第35回国際学術大会報告, 韓国ハンバッド大学校, 2017. 5. 13.
- ③梅野正信・金恩淑, 植民地民衆師弟のアジア認識—植民地朝鮮中等学校の校友会誌を中心に—, 4つの地域史学会及び韓国教員大学校教育博物館共同主催国際学術大会：植民地時代の教育, 韓国教員大学校, 2017. 11. 18.
- ④國分麻里, 福岡高等女学校卒業生の「東アジア」移動—『香蘭会誌』における同窓会活動を中心に—, 同上, 韓国教員大学校, 2017. 11. 18.
- ⑤金玟辰, 食文化から見る東アジア交流史授業の成果と課題—釜山大学校師範大学附設高校での実践を通して—, 日本国際理解教育学会第27回研究大会, 筑波大学, 2017. 6. 3.
- ⑥高吉嬉, 李仲變と山本方子にみる「日韓多文化家族」(その1)—植民地, 戦争, 貧困, 離散, そして愛—, 韓国日本近代学会第34回国際学術大会報告, APU, 2016. 10. 29.
- ⑦國分麻里, 植民地朝鮮における児童の創氏改名—学校100年史卒業生名簿の「改名」を中心に—, History of education and language in late Chosen and Colonial era Korea(招待講演), 九州大学, 2016. 2. 16.
- ⑧高吉嬉, 東アジアにおける平和と友好のための教育課題, 第5回国際学術シンポジウ

ム:東アジアにお終戦70周年東アジア関係の回顧と展望(招待講演),韓国東義大学国際館,2015.12.4.

⑨高吉嬉,グローバル市民教育の視点から見る日韓関係,第32回韓国日本近代学会国際学術大会・学術シンポジウム報告(招待講演),九州大学伊都キャンパス,2015.10.31.

⑩二谷貞夫,教材研究をしなくなったら教師を辞めるべしーこれまでの上越教育大学社会科教育学会とこれからの社会科教育ー,上越教育大学社会科教育学会第30回研究大会,上越教育大学,2015.10.24.

⑪國分麻里,教科教育学の立場からの「教科書」研究ー植民地期朝鮮の歴史教育を事例にー,第24回アジア教育史学会年次大会シンポジウム,大正大学,2015.8.19.

⑫高吉嬉,日本の中学校歴史教科書にみる「満州」認識,第31回韓国日本近代学会国際学術大会報告,韓国・嶺南大学,2015.5.9.

〔図書〕(計 10 件)

①高吉嬉・國分麻里・金玟辰編著,交流史から学ぶ東アジアー食・人・歴史でつくる教材と授業実践ー,明石書店,2018,全136頁.

②國分麻里,韓国の学校教育における市民教育,18歳までに育てたい力ー社会科で育む「政治的教養」,学文社,2017,全186(担当:127-136).

③國分麻里,ESDとしての『世界記憶遺産』,教科教育におけるESDの実践と課題ー地理・歴史・公民・社会科,古今書院,2017,全304(担当:79-94).

④二谷貞夫,世界史教育の現在と未来 二一世紀の世界史学習の在り方ー自主的な世界史像の形成をめざしてー,地域から考える世界史ー日本と世界を結ぶー,勉誠出版,2017,全464(担当:218-234).

⑤高吉嬉,二人の「巧」と韓国ー浅川巧と藤本巧にみる日韓相互認識ー,東アジア研究叢書,バクムン社,2016,全421(担当:11~46).

⑥國分麻里,東アジアに生きる市民の育成,「公民的資質」とは何かー社会科の過去・現在・未来を探る,東洋館出版,2016,全168(担当:126-135).

⑦國分麻里・金玟辰,(翻訳)韓国の歴史教育ー皇国臣民教育から歴史教科書問題までー,明石書店,2015,全377.

⑧國分麻里;井田仁康・伊藤純郎・唐木清志・國原幸一朗・栗原久・須賀,中等社会科21世紀型の授業実践ー中学校・高等学校の授業改善への提言,学事出版,2015,全206.

⑨二谷貞夫,「自国史と世界史」をめぐる国際対話ー比較史・比較歴史教育研究会30年の軌跡,ブイツーソリューション発行星雲社,2015,全192.

⑩二谷貞夫,中等社会科ハンドブック,学文社,2015,全158.

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

①「東アジア交流史教材の実践と普及に関する研究」

<http://www.juen.ac.jp/kaken/24531177/index.html>

②『交流史から学ぶ東アジアー食・人・歴史でつくる教材と授業実践ー』(明石書店)

<http://www.akashi.co.jp/book/b353517.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

高吉嬉 (KO, Kilhee)

山形大学・地域教育文化学部・教授

研究者番号:20344781

(2)研究分担者

梅野正信 (UMENO, Msanobu)

上越教育大学・その他部局等・理事兼副学長

研究者番号:50203584

(3)連携研究者

國分麻里 (KOKUBU, Mari)

筑波大学・人間系・准教授

研究者番号:10566003

(4)研究分担者

金玟辰 (KIM, Hyunjin)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号:10591860

(5)研究協力者

二谷貞夫 (NITANI, Sadao)

上越教育大学名誉教授,元日本社会科教育学会会長

(6) 研究協力者

蔡 秋英 (SAI, Shuei)

広島県立戸手高等学校